

## 【協働の評価】

<p>協働で進めて いきたい理由</p>	<p>役割分担を相互に共有、実施することで、市は幅広い告知や、関係各所との連携を迅速に実施、運営者は事業内容の充実、現場のニーズを捉え、実現、実施可能となっている。今後も課題を共有し、互いに課題解決に取り組んでいきたい為。</p>
<p>協働の 成果・効果</p>	<p><b>【協働の成果目標】</b> 子どもたちが自由に生き生きと遊ぶことのできる遊び場の提供及び自然遊びの情報発信を行うことのほか、子育てに関する情報提供や、子育て中の親子に対する支援を地域団体等と協働で実施することにより、地域の交流や多世代交流の活性化を図ること。</p> <p><b>【達成できた点】</b> イベント実施回数及び夏休み期間中の開所日数の増加により、来館者数が1.06倍程度増加した。広報や市の公式LINE、春夏秋にかけてチラシを発行するなど、積極的な周知活動が実を結ぶ結果となった。</p> <p><b>【達成できなかった点】</b> ・施設の立地上車でアクセスが望ましいが、施設内に駐車場がないため、未就学児親子が利用しにくい現状がある。未就学児親子が利用しやすいような環境整備を引き続き努めていきたい。</p>
<p>相互評価</p> <p>※上手くいったこと 問題点・課題など</p>	<p><b>【事業実施前】 ★3</b> ○市 令和4年度に共有した課題及び成果を踏まえて、令和5年度の課題を「午前中の利用者数増」・「地域・多世代交流の活性化」・「冒険遊び場の周知」とし、共有した。 ○団体 令和4年度事業成果と課題項目を上げ、令和5年度の課題として以下3点を挙げた ・「午前中の利用者数増」・「地域・多世代交流の活性化」・「冒険遊び場の周知」 上記を令和5年度の課題とし、取り組み項目を共有した。</p> <p><b>【事業実施中】 ★4</b> ○市 随時状況を共有しながら、役割分担に基づき、事業を進めることができた。広報活動として、市の公式LINEによる定期的な情報配信を実施したほか、チラシを全小中学校、保育園並びに幼稚園などの子育て関連施設へ配布し、周知を図った。 出張冒険遊び場の実施にあたり、青少年課、みどり公園課や各消防署と連携を行った。 冒険遊び場協働運営事業の推進に関し、幅広く意見を聴取し、検討するため、鎌倉市冒険遊び場協働運営事業推進検討委員会（以下検討委員会とする。）を設置し、議題に応じて年1~2回実施している。 検討委員会への報告にあたっては、利用者数や事業の費用についてのほか、課題である「午前中の利用者数の増加」・「地域・多世代交流の活性化」・「冒険遊び場事業の周知」について報告した。 ○団体 地域住民をスタッフ・ボランティアとして起用、地域イベントで企画から参加してもらうなどして地域交流を行った。また深沢支援センターとの連携をとり、子育て親子への受け皿としての周知を行った。 広報活動として、こども支援課を通して、鎌倉市公式LINE配信を依頼。また、やまもりの公式ホームページやSNSでイベント情報の告知や様子などを更新を行い、チラ</p>

	<p>シを全小学校、保育園並びに幼稚園への配布を行った。</p> <p>市内6か所での出張冒険遊び場を開催。地域の方々にスタッフ参加や端材提供など声掛けし参加頂いた。</p> <p><b>【事業終了時】 ★5</b></p> <p>○市          イベント実施回数の増加や夏休み期間での木曜日開所により、遊び場の利用人数は増加した。          出張冒険遊び場では地域住民・地元工務店の協力を得られながら、子どもたちが自由に生き生きと遊ぶことのできる場とすることができ、参加者数も増加した。引き続き、広報やSNS等を活用しながら周知活動を行い、事業の継続を図りたい。</p> <p>○団体          地域交流として、乳幼児親子から、小学中学生の利用、ボランティアとして高校生の参加、その他ボランティアの大人の方々に参加頂き、広い年代の方に鎌倉冒険遊び場を知ってもらい参加してもらえた1年となった。          出張冒険遊び場では地域の方にスタッフやボランティアとして参加頂いた。また地元の工務店などに声掛けし、端材提供を頂くなど、地域の方々と冒険遊び場を開催することができた年であった。          遊び場の利用人数は増加し、出張冒険遊び場の参加者数も増加し、のびのびと遊べる遊び場づくりが実施できた。          午前中利用の推進において、イベント内容を検討し取り組んだが、大きな増加には至らず引き続き周知方法を検討し、取り組む必要がある。          また、地域利用の推進や地域の方への遊び場を知ってもらう取り組みが不足していた。協働事業推進委員会での報告会、一般報告会を実施し、来場者増加に対する安全面（スタッフ人数や十分な安全対策）をしっかりと対応し、事業の充実と継続を、とのご意見を頂いた。</p>
<p><b>今後の展望</b></p>	<p>「地域に根ざした遊び場、年齢に切れ目のない、だれでも利用できる居場所づくり」を行う。</p> <p>幼児（未就学児）から小中高校生まで子育て情報の連携・交換の場が必要と考え、遊び場に機能を持たせ、地域で子育てできる場の一つとして、遊び場の充実を図る。</p> <p>必要に応じて、青少年課など他課とも話し合いの場をもち、随時課題共有を行う。今後も引き続き、かまくら冒険遊び場梶原の日曜開所や出張冒険遊び場の実施回数の増加などに向けて検討を行う。</p>